

言われているが、学校の先生も「思考力・判断力・表現力」を磨き、複眼的、批判的に思考する力が求められている。

2013年1月

—新年一考： 知の伝承を忘れかけた学校— 東條 加寿子

新年を迎えた。新しい年に際して、地球温暖化や人口問題などの地球規模の問題や日本のエネルギー問題を考えるにあたっては、「これから30年先には・・・」といった中長期的な未来を展望することが多い。一方、子どもたちや若者の教育の問題は、未来を担う人材の育成という観点からは確かに未来を展望する問題には違いないが、教育の現場での実践は現在に軸足を置いた日々の地道な活動である。その「現在」は未来を展望すると同時に、「これまで」としっかりと繋がっていなければならない。過去と現在を繋ぐ知の伝承。ともすれば価値が希薄になりつつある教育における知の伝承について考えてみた。

先日、好著『古典を失った大学——近代性の危機と教養の行方』（藤本夕衣著、NTT出版、2012）に接した。教育学研究者の藤本は、本書の中で大学の価値を古典を読む場として捉え直す試みを展開している。京都大学教授 佐伯啓思は「古典軽視 大学改革の弊害」（産経新聞、2012. 11. 19）と題した論説の中で同書を引いている。佐伯は、「時代感覚が違う」という理由から古典が読まれなくなったことを憂え、その背景として、大学改革で「社会に出て役立つ学生をつくる」ことを基本方針として、ひたすら「専門的知識」を重用し、短期的で可視的な成果主義を迫ってきたことを挙げている。両氏によれば、古典とは「人々の共有する価値」であり、「社会の規範や世界の見方などを模索する際の規準」であり、人間が生きることに関わる普遍的な「大きな物語」である。そして、佐伯によれば、今や古典は権威を失い、すべてが相対化され、「何でもあり」の時代となっている。

これらの議論の中で「古典」は「専門的知識」に対しての「教養」と同義に論じられており、大学教育の中で「古典」すなわち「教養」が今一度見直されなければならないという主張がなされている。ここで「古典」を「知・知識」に置き換えて考えてみると、学校教育の中でほぼ同様の議論ができるのではないかと思う。ゆとり教育は、知識偏重からの脱却を掲げ、子どもたちの主体的で創造的な学びを追い求めたものであったに違いない。情報が氾濫する現代において、主体的に情報を取得し、創造的に考え、問題を解決する能力を養うことを追い求めたものであったに違いない。そしてその結果、伏線として、権威的な知識の伝承に対する否定的な態度が埋め込まれたのではなかろうか。

基本的知識基盤の（欠落とまでは言わないまでも）弱体化は、現在、初等教育から高等教育に至る教育の現場での最大の問題であると筆者は考えている。相対的にものを考えるためにはまず、「大きな物語」すなわちコンテキストを持たなければならない。創造的にものを考えるためには自己の確立や価値観の確立が不可欠である。自律した主体性は、しっかりと知識基盤の上にごそ築くことが可能である。数学の定理や物理学の理論、世界の歴史や地理、言語構造（文法）の基礎知識は学校教育の中でこそ、しっかりと伝授されなければならないことを、今一度しっかりと捉え直したいと思う。

新年に際して人々は未来を展望するが、あえて「古典」の重要性に思いを馳せてみた。2013年という「現在」がよい年になることを祈りながら。

3. 書籍紹介

2月

節分が過ぎると立春である。また春の季節がやって来る。意を決して、新しいことに取り組んでいかなければならない。何をやり遂げるかは、今のあなたが何を信じ、あきらめずにがんばるかによって決まる。これからも、

様々な出会いがあるだろう。川の流れのように、ゆっくりと進むこともあるだろうが、急激な流れで進んでゆくこともあるだろう。ただ、先へ先へと進んでゆく。水は常にもとの水ではなく、変化し続ける。あなたも変化し続けてゆく。人生においては、その変化こそ価値がある。その変化を彩るには、あなたの中にたくさんの引き出しを用意して、その引き出しから、これまで経験したことや出会った人や本のことをいつでも取り出せるようにしておくこと、そしてこれからも出来るだけ多くの経験や人、本と出会うことである。それがあなたの信じる力を大きくする。あきらめないで、前へ進む勇気と知恵を与えてくれる。

『推論発問を取り入れた英語リーディング指導—深い読みを促す英語授業』

田中武夫、紺渡弘幸、島田勝正（著）197 ページ、三省堂（2011/08）2310 円

中部地区英語教育学会における課題別研究プロジェクトの研究成果をまとめたもの。リーディング指導を活性化するために、推論発問を使って何ができるのかについて、現時点での結論を具体的な形にまとめている。日頃の授業で、効果的な発問はどうすればいいのだろうか悩んでいる教員にとっては、発問の仕方の整理ができるであろう。思考力、判断力の育成が求められている中、深い読みをどう進めていくかの参考になる。推論発問とは inferential questions で、テキスト上の情報をもとに、テキスト上には直接示されていない内容を推測させる問いかけである。



『英語で話すヒント——通訳者が教える上達法』（岩波新書）

小松達也（著）208 ページ、岩波書店（2012/1/21）735 円

「まず日本語で考える」「単語は全部聞き取れなくてよい」「発音よりリズム」「〈最寄り訳〉の発想で」「文学作品を楽しむべし」——。海外在住経験がないというあなたも諦めることはありません。日本語を生かす通訳者の英語術には、大人の学習者にこそ役立つヒントが満載。〈使える英語力〉を身につけるために、必読の一冊！と表紙裏にある。通訳者の立場から見た英語上達の観点、課題を提示している。たとえば、英語の語順は、S+V+O, S+V+C であるが日本語は S+O+V, S+C+V となる。そうした語順の違い無意識に身につけるには相当のインプットによる習慣化が必要であると、そのため、意識化して学ぶことで自動化を図ることが必要と述べている。



『人を動かす英語』（PHP 新書）

ウィリアム・ヴァンズ（著）224 ページ、PHP 研究所（2011/11/16）756 円

イェール大学で人気のビジネス・コミュニケーション講義を教えるウィリアム・ヴァンズ博士が、文法や語彙を超えた別次元の英語能力をつける方法を伝授とある。具体的に言えばもっと順調にいく／フォーマル過ぎる日本人のメール／ビジネス英単語を効果的に増やす戦術／最速で一流の英語スピーカーに近づく秘訣／強調は、大人っぽくする／成功は声に左右されているなど、日本では誰も教えてくれないことが書かれている。たとえば、「フォーマル過ぎる日本人のメール」では、Don't forget to bring your laptop. を Do not forget to bring your laptop. と省略形を使わない表現をする日本人が多い。確かに論文等では省略形を使わないが、口語の世界は逆である。省略形を使わない方が、権威的でお説教的になる。



『下山の思想』（幻冬舎新書）

五木寛之（著）223 ページ 幻冬舎（2011/12/9）777 円

新聞の書評でもよく扱われているので読んでみた。「山頂をきわめる。そして、ひと息入れたら下山にかかる。下山に失敗すれば、登山は成功とはいえない。登って、下りる。両方も登山であり、山は下りてこそ、次の山頂をめざすことができる。」と著者は述べている。坂の上の雲だけを追い求めることはできない。登れば下ることは当たり前で、セットになっている。再出発は一旦下山してからである。エッセイを集めものなので、同じ内容が何度も出てくるところがちょっとだらだらとした感じを持たせるが、下山の観点を持つことにはいいだろう。今年の年賀状には「還暦を迎え、人生には往路と復路があるように思う。これからは人生の階段を一段一段下って行く。往路より少し短めでやや急な復路が待っている。記憶する事と、忘れる事が逆転し始め、少年期に戻り、やがては赤ん坊に還ってゆくことだろう。景色が異なる復路をゆっくりと味わってゆこうと思う。」と綴った。



サラリと 流してゆかん
川の如く
サラリと 忘れてゆかん
風の如く
サラリと 生きてゆかん
雲の如く

《坂村 真民》

『「ことばを遊ぶ」英語指導—中学校から大学までの教育実践』

原田昌明 (著) 140 ページ、研究社 (2005/02) 2100 円

昔、著者の『英語の言語活動 WHAT & HOW』大修館書店 (1991/02) を読んで、中学校向けの文法項目の指導教材のユニーク性に創造的なひらめきのある著者と思ったことがある。この書籍も少し古いものである。書店で棚に残っているのを見つけた。アマゾンで古書籍としては 700 円くらいで売りに出ている。古書として買えば値打ちがあると思う。全てが実際に使えるとは思えないが、英語を楽しんで使っているうちに、知らず知らずのうちに英語が身につく、学習者が生き生きと活動できる、そうした「遊び心」にあふれた授業のアイデアを、著者自身が実践したものの中から集めて紹介したものである。明日の教材に悩んでいる方に視野を広げて教材探しをするヒントになるだろう。



3 月

未知へ 木村 信子

わたしが響いている
透明な殻の中で響いている
ありったけ響いている
外はもうすぐ春らしい

わたしが響いている
痛いほど響いている
あふれるほど響いている
もうすぐわたしは割れるのだ

わたしが響いている
おもてへこだまして響いている
まだ見たこともない山へ胸をときめかせて
わたしが響いている

寒波が何度も日本列島を襲いましたが、三寒四温、これから少しずつ春になってゆきます。全てのものが新しく生まれ変わろうとするこの季節、喜びがちよろちよろとわき出してくるような気がします。

卒業式を終え若者が巣立ち、また新たな若者を迎えます。私たちもまた、装いを新たに新学期を準備する時です。しっかり充電して 4 月を迎えましょう。

『インストラクショナルデザインの原理』

ロバート・M. ガニエ (著), キャサリン・C. ゴラス (著), ジョン・M. ケラー (著), ウォルター・W. ウェイジャー (著), Robert M. Gagné (原著), John M. Keller (原著), Katharine C. Golas (原著), Walter W. Wager (原著), 鈴木 克明 (翻訳), 岩崎 信 (翻訳) 462 ページ 北大路書房 (2007/09) 3990 円



学習環境や教材などの分析・設計手法を体系化した授業設計 (Instructional Design) に「ガニエの 9 教授事象」(Gagne 2004) がある。それを知りたくて本書を購入した。

- ① 刺激の受容を確実なものにするために注意を獲得する
- ② 適切な期待感を確立するために学習者に学習の目的を知らせる
- ③ 長期記憶から以前に学んだ内容を取り出すように学習者を促す
- ④ 選択的知覚を確実なものにするために教材を明瞭に際立たせて提示する
- ⑤ 意味的符号化を適切に行えるように学習の指針を与える
- ⑥ 反応の生成を伴うパフォーマンスを引き出す
- ⑦ パフォーマンスに対してフィードバックを与える

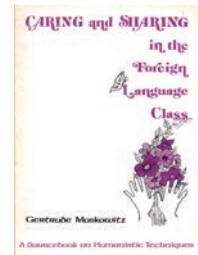
⑧反応とフィードバックの機会を重ねて用意しパフォーマンスを評価する

⑨多様な実践の機会を工夫し将来の検索と転移を助ける

IT を活用した授業設計で ADDIE(Analyze, Design, Develop, Implement, Evaluate) モデルに基づいている。

“Caring and Sharing in the Foreign Language Class: A Sourcebook on Humanistic Techniques (Methodology)”

Gertrude Moskowitz(著) 358 ページ Wadsworth Pub Co (1978/06)1 new from \$618.21 11 used from \$57.08



高校教員になってしばらくして、“Humanistic Approach”にはまった。ニューベリハウスから出版されていた縫部義憲の『人間中心の英語教育』(1985)を何度も読み返した。堅苦しい教科書より、生徒の気持ちを揺り動かす教材をと思ったものだ。このヒューマニスティック・アプローチの提唱者がモスコビッツである。最近になって原著を手に入れた。中古本しか出ていないが、様々な実際の指導例を一読することで、アイデアが浮かぶ気がする。

Caring and Sharing in the Foreign Language Class shows how to integrate a humanistic approach to language teaching with a planned curriculum to promote student self-actualization and self-esteem.

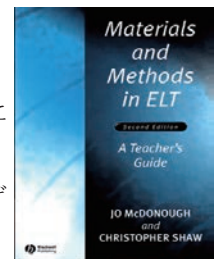
読者の評に以下のものがあつた。

This book offers practical suggestions for teaching in the classroom that is both helpful to the novice teacher as well as the “tired” more experienced one. The index at the end of the book helps teachers to focus in on specific activities for different language points. These activities can supplement and highlight the regular curriculum. The activities clearly define the population that they can be used with, the size of the groups, materials needed, etc. I have recommended it to my students in my educational methods courses and have had my teachers extol the way in which it helps them to round out their lessons. A worthwhile addition to one’s professional library.

“Materials and Methods in ELT: A Teacher’s Guide (Applied Language Studies)”

Jo McDonough(著) 296 ページ Wiley-Blackwell; 2 版 (2003/2/17) 3400 円

8 月に 3rd edition が出版される予定である。今回の教員免許状更新講習で教材開発を扱うが、その際に参考にしたのが本書である。



McDonough(2003) は教材をチェック・改作する際の adapting materials(P.77) のポイントを以下のように挙げている。

- Not enough practice of grammar points of particular difficulty to these learners.
- The communicative focus means that grammar is presented unsystematically.
- Reading passages contain too much unknown vocabulary.
- Comprehension questions are too easy, because the answers can be lifted directly from the text with no real understanding.
- Listening passages are inauthentic, because they sound too much like written material being read out.
- Not enough guidance on pronunciation. Subject matter inappropriate for learners of this age and intellectual level.
- Photographs and other illustrative material not culturally acceptable.
- Amount of material too much or too little to cover in the time allocated to lessons.
- No guidance for teachers on handling group work and role play activities with a large class.
- Dialogues too formal and not representative of everyday speech.
- Audio material difficult to use because of problems to do with room size and technical equipment.
- Too much or too little variety in the activities.
- Vocabulary list and a key to the exercises would be helpful.
- Accompanying tests needed.

Content areas のことを踏まえ、提示方法・手段も考慮する。たとえば、

- 文法事項が提示されているだけで、わかりやすさに欠ける、活用には不十分である
→ 補足教材の準備、図解などの説明教材を作成、活用型の教材を創作する。
- 担当する学習者が特に困難に感じられる文法項目の練習問題が少ない

→追加の練習問題の導入、学習者のレベルに合わせて基礎・発展など2パターン用意したワークシートを用意する。

・読解用本文に未知語が多すぎる。

→生徒が理解できる簡単な単語に置き換えて口頭で説明したり、類語や語のイメージをつかめたりするよう板書を工夫する。

・教科書記載の理解確認質問は、答えが本文中からそのまま抜き出せるので易しすぎる

→推論の問いかけ (inferential questions) や「賛成・反対」などの評価の問いかけ (evaluative questions) を考える。

など考えた。最新刊は 320 ページ Wiley-Blackwell; 3 版 (2012/8/21) 4390 円である。

4 月

日本人は季節の兆し、さきがけに敏感でそれを愛でる気持ちが強い。ちょっとした変化を受け止める。俳句の季語はそうした日本人の感性である。

さて、春はいつも気持ちがいい。何かが始まるという気持ちでいっぱい。ただ、待っているだけだと、何も変わらないまま過ぎてゆく。さまざまなことに問いかける質問をたくさん持とう。

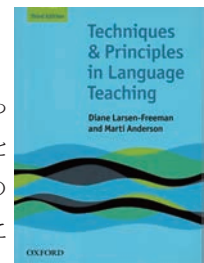
一つしか考えていなかったら、次の質問をその場で考えなければならない。これからの自分を作っていくには、たくさんの質問を用意しておくことだ。立場を変えて考える質問、自分の視野を大きく広げていく質問、一つのことに焦点を当てつぎつぎに深める質問、様々な問いかけをすることで自分がわかる。

その本気があなたを作り出してゆく。しっかり本を読もう。

Techniques & Principles in Language Teaching

Diane Larsen-Freeman (著) 252 ペー Oxford Univ Pr (Sd); 3 版 (2011/01)

初版は 1986 年で、その頃の勉強会で教授法の勉強をしたテキストである。今日採用されているよく知られた 8 つの言語教授法を紹介し論じる。その教授法のいくつかは長期にわたって使われており、そのほとんどは言語教授法を扱った文献のどこかですでに言及されている。それぞれの教授法の段階的な活動の principles が明記されていて、なぜそうすることに意味があるのか、気をつけるポイントは何か分かるようになっている。本学の英語科教育法 I のテキストの一冊として学生にそれぞれの指導法について発表させている。



『英語は要領—60分で英語はわかる—』

山西治男 (著)、173 ページ アスコム (2012/1/30) 680 円

「英語の「キモ」さえ理解すれば、英語力はラクにアップします。」が著者の主張。英語の本質的なことを、わかりやすく解説している。文庫本で行き帰りの電車の中ですらすら読める。教室で生徒にも話してあげると、みんな納得。著者には『大人のやり直し英語』アスコム (2011) という類書があるが、こちらの方が安価で持ち運び安い。



『英語じょうずになる事典—ネイティブ講師が日本人のために書いた英語あたまをつくる 210 講』

デビッドバーガー (著) 358 ページ アルク (2008/12) 1890 円

日本人にとっての「英語の落とし穴」をやさしく解説。ありがちな「間違い例」のケーススタディを通じて、あやふやだった文法・表現を納得して使えるようにさせるのが本書のねらい。

日本人が陥りやすい落とし穴例では

「彼女は目を閉じていた」・・・× She was closing her eyes.

「君の夢を見たよ」・・・× I saw your dream.

日本語をそのまま逐語的に訳すると訳の分からない文章になることを生徒に例示して説明するのに使える。



『英語達人列伝—あっぱれ、日本人の英語』(中公新書)

斎藤兆史 (著) 中央公論新社 (2000/05) 798 円

グローバル化が叫ばれて久しいが、我々が欧米化することではない。日本にいながらにして、英米人も舌を巻くほどの英語力を身につけた「達人」たちは、西洋かぶれになることなく、外国文化との真の交流を



実践した。岡倉天心、斎藤秀三郎、野口英世、岩崎民平、白洲次郎ら、十人の「英語マスター法」を紹介するとともに、英語受容をめぐる日本近代文化史を描きだしている。

『語りきれないこと 危機と傷みの哲学』（角川 one テーマ 21）

鷺田清一（著） 186 ページ 角川学芸出版（2012/2/10） 724 円

心を引き裂かれる経験、体の奥で疼いたままの傷。どうすれば苦難から身を立てなおすことができるだろうか？ 傷ついた人々の声を「聴くこと」を課題として臨床哲学を提唱した著者が、心の傷口を静かにおおってゆく「語ること」の意味を真摯に説く。

第1章 「語りなおす」ということ―

語りきれないもののために（心のクッション？「まちが突然、開いた」語りにくさ ほか）

第2章 命の世話―

価値の遠近法（求められる、もう一つの語りなおし危機の信号決められないわたしたち ほか）

第3章 言葉の世話―

「明日」の臨床哲学（見えないことが多すぎて特殊な素人見えているのに見てこなかったこと ほか）



『特別授業 3.11 君たちはどう生きるか（14 歳の世渡り術）』

あさの あつこ（著）、池澤 夏樹（著）、鎌田 浩毅（著）、最相 葉月（著）、斎藤 環（著）、橋木 俊詔（著）、田中 優（著）、橋爪 大三郎（著）、鷺田 清一（著） 245 ページ 河出書房新社（2012/3/3） 1260 円

3.11 で何が問われ、何を学び、どう生きるのか。これからを担う 10 代から 20 代に向けて、[国語] あさのあつこ、[歴史] 池澤夏樹など、全9教科、紙上特別授業。豊富な注釈、資料データ入り。

国語 「表現する力をつけてほしい」 あさのあつこ

歴史 「きみは世界史の中にいる」 池澤夏樹

倫理 「支えあうことの意味」 鷺田清一

地理 「日本とはどんな場所か？ 今後どうなるのか？」 鎌田浩毅

政治 「いまこそ政治の本当の意味がわかる」 橋爪大三郎

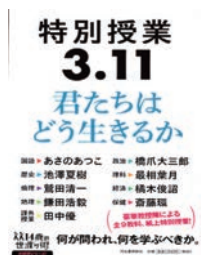
理科 「科学は私の中にある」 最相葉月

経済 「経済成長より大切なこと」 橋木俊詔

保健 「いま、こころのケアとは？」 斎藤環

課外授業 『『祈り』の先にあるもの』 田中優

書店には 3.11 のコーナーが有り多数の書籍が並んでいる。本書はそのうちに一冊である。



『日本人の美質』（ベスト新書）

坂東真理子（著） 206 ページ、ベストセラーズ（2011/12/9） 800 円

東日本大震災で見られた日本人の行動様式を通して、日本人のつくり出すモノの品質やサービスの良さは言うまでもないが、本来われわれがもっている価値観や考え方にこそ世界に誇れるものではないかと筆者は述べる。『女性の品格』の坂東真理子が日本人の生き方を提案している。



5 月

人は思い込みの日々を過ごしていることが多い。気づかぬまま、余りよく考えぬまま毎日を過ごしている。その方が楽だから。思い込みでは工夫は生まれぬ。振り返りがなければ進歩はない。道筋を考えないとすぐに迷ってしまう。

初夏の風が吹き出した。

チェンジ、着古した空気がすると脱げて新しくなる。その新たな空気が身体の中に染み渡り、新鮮なアイデアや考えが思い浮かび新たな視野が目の前に広がる。とっても気持ちのいいことだ。

さあ、連休はちょっと一休みして本を読んでみよう。

『美しい日本語のすすめ』(小学館 101 新書 51)

板東眞理子(著) 192 ページ 小学館(2009/10/1) 735 円

『女性の品格』の著者、昭和女子大学学長坂東眞理子氏は日本について書き下ろした。生きにくいとされる現代社会では、コミュニケーションツールとしての日本語の力が必要である。人間関係を豊かにし、幸せになるために必要な日本語の作法として、職場で、家庭で、また世界の中で、私たち日本人はどのように日本語で表現すべきなのかを提言している



【目次】

第一章「あいまいな日本語と、思いやりのある日本語」

第二章「アサーティブな日本語」

第三章「組織で働くための日本語」

第四章「女性の日本語」

第五章「世界の中の日本語と英語」

『新しい時代の英語科教育の基礎と実践 成長する英語教師を目指して』

JACET 教育問題研究会 336 ページ 三修社(2012/2/29) 2730 円

新学習指導要領に完全準拠した英語科教科法テキストとしては一番新しい。「これからの時代の英語教師に求められる資質を高めることをとくに重視し、本書では、「学習者中心 (learner-centered)」「インタラクション (interaction)」「言語観・教育観の構築 (learner/teacher belief)」などに基づく『ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)』の理念(複言語・複文化主義/行動志向/資質・能力の可視化/省察/自己評価、など)を取り入れ、日本の教員養成現場で受容できるように文脈化することを試みました。」と解説にある。



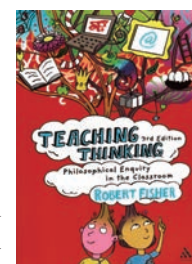
“Teaching Thinking: Philosophical Enquiry in the Classroom”

Robert Fisher(著), 224 ページ Continuum Intl Pub Group (Sd); 3 版(2008/6/15) 3260 円

本書の裏表紙解説に、

"A highly successful guide to encourage classroom discussion for developing children's thinking, learning and literacy skills containing material on the latest trends in teaching thinking, including dialogic teaching, creativity and personalized learning. This sourcebook of ideas is essential reading for anyone seeking to develop children's minds, to build their self-esteem or to improve the quality of teaching and learning in schools. This is a fully updated third edition of the highly successful guide to using discussion in the classroom to develop children's thinking, learning and literacy skills. This new edition includes material on the latest trends in teaching thinking, including dialogic teaching, creativity and personalized learning. とある。

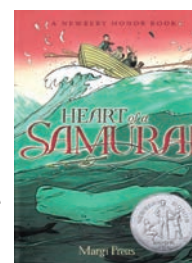
本書内には有名な学者の言葉だけでなく、子どもたちの知恵のある言葉が掲載されており、考えるということはどういうことかに示唆を与えている。また、読みやすい英語で書かれている。



“Heart of a Samurai”

Margi Preus(著) 336 ページ Harry N. Abrams(2012/2/1) 610 円

2010年のニューベリー賞を受賞した作品。この侍は、ジョン万次郎の話である。「fall down seven times, get up eight(七転び八起き)」の人生を送った万次郎、万次郎が体験したことはまるで冒険小説である。米国の子どもたちにも人気の本であるらしい。味気ない副読本より、こうした本を生徒にも読ませてみてはいかがでしょうか。



『字幕の花園』(集英社文庫)

戸田奈津子(著) 368 ページ 集英社(2011/9/16) 700 円

裏表紙に、「心を揺さぶる名台詞は、生きた英語を学ぶのに最高のテキスト。「ハリ・ポッター」シリーズなどのメガヒットをはじめ、ここ10年の話題作90作品から選りすぐりの会話をピックアップ。他にも秘蔵写真とともにハリウッド・セレブの素顔を紹介する「スターと私のナイショ話」や、字幕のルールづくりに貢献し



たのは芸者さん(!?) など、業界ウラ話も満載。映画の魅力にあふれたファン必携の一冊。」とある。

今年の入学式での学長の挨拶は極めてユニークであった。映画「モナリザ・スマイル」の映画のほんの一部を紹介し、「大学で学ぶとは」を新入生に語った。本書にもその映画の紹介がある。

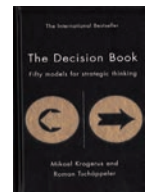
Violet: Oh, Katherine Watson. New teacher. Art History. I'm dying to see her.”と主演のジュリアロバーツ演じるキャサリンを紹介。“She came to Wellesley because she wanted to make a difference.”などの英文が載っている。

ところで、< Make a difference >とは「何かの行動を起こす前と後とを比べて、明らかに今迄と違った、新たな価値ある変化を作り出すこと」である。「環境を変える」「人生を変える」「世界を変える」make a difference の気持ちで大切ですね。

“The Decision Book: Fifty Models for Strategic Thinking”

Mikael Krogerus, Roman Tschppeler(著) 224 ページ Profile Books Ltd (2010/10/30) 1244 円

This is the 6th bestselling business book of 2011 – a smart, fun, bestselling guide to making the right choices. Most of us face the same questions every day: What do I want? And how can I get it? How can I live more happily and work more efficiently? A worldwide bestseller, “The Decision Book” distills into a single volume the fifty best decision-making models used on MBA courses and elsewhere that will help you tackle these important questions – from the well known (the Eisenhower matrix for time management) to the less familiar but equally useful (the Swiss Cheese model). It will even show you how to remember everything you will have learned by the end of it. Stylish and compact, this little black book is a powerful asset. Whether you need to plot a presentation, assess someone’s business idea or get to know yourself better, this unique guide will help you simplify any problem and take steps towards the right decision.



ビジネスマンが読む書籍である。それぞれのモデルが象限図などで考える方向がわかりやすいように示している。

『舟を編む』

三浦しをん(著) 259 ページ 光文社 (2011/9/17) 1575 円

今年の本屋大賞受賞作である。昨年から売れている本屋ノミネートされている本を数冊購入して読んで、この本がトルのではないかと予想していた。受賞したときは、選者の一人のような気分で嬉しかった(ばかみたい)。文庫本の2冊の『ビブリア古書堂の事件手帖―菓子さんと奇妙な客人たち』も古書を扱っていて気に入っていたが、やはりこれだと思った。



「玄武書房に勤める馬締光也は営業部では変人として持て余されていたが、新しい辞書『大渡海』編集メンバーとして辞書編集部を迎えられる。個性的な面々の中で、馬締は辞書の世界に没頭する。言葉という絆を得て、彼らの人生が優しく編み上げられていく。しかし、問題が山積みの辞書編集部。果たして『大渡海』は完成するか——。言葉への敬意、不完全な人間たちへの愛おしさを謳いあげる三浦しをんの最新長編小説」と解説にあるとおりである。息抜きに一読を勧める。

6 月

雨の語源は、「天(あめ)」という説がある。人間が空を見上げて、自然に口が大きく開いて発した思われる音は「あ(一)」であろう。そして口を閉じて「む」と。天をあめと読むのは納得できる気がする。そこから雨も生まれた、漢字を見ても天からテンが四つ、雨が降っているように思える。つゆを「梅雨」と表すのはなぜだろう。つゆは「露」から生まれたのでは思われる。梅の実が熟して落ちることと関係があるのだろうか。6 月は梅雨の季節である。

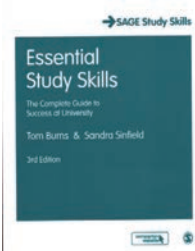
この雨が、稲の命につながる。草木も夏に向け一層大きくなる。

雨の日曜日など、本を読んで閑かな時間を過ごすも人には必要だ。忙しいだけでは、人生に潤いがないだけでなく、真の成長はしないのではないだろうか。

“Essential Study Skills: The Complete Guide to Success at University” (SAGE Study Skills Series)

Tom Burns(著) 472 ページ Sage Publications Ltd; Third 版 (2012/3/26) 2044 円

本書は大学生のための学修(習)の手引きである。学生にライティング・リーディングのコツを話すときに、本書に掲載されている tips を使うことがある。



たとえば、“How to be creative in your learning” では、

1. Write the whole question in the middle of a really large sheet of paper - A1 or flip chart paper is best.
2. Do not abbreviate the question. Any word that you do not write down is a research avenue that you do not explore.
3. Look at the words in the question. Circle or underline the key words.
4. Write anything and everything that comes to mind when you look at a word.
5. When you have finished, move on and do the same to another word. Keep this up until you have tackled all the words in the question.
6. Then go round again.

とマインドマップの手法や例が書かれている。

『やり直し教養講座 英文法、ネイティブがもっと教えます』（NHK出版新書 376）

デイビッド・セイン（著）、224 ページ NHK 出版（2012/4/6） 777 円

この種の英語本で、超人気ライターのデイビッド・セイン。NHK出版では『英文法、ネイティブが教えるところあります』に続く第2弾である。前著では紹介しきれなかった代名詞、接続詞、形容詞、副詞などを解説している。体系的な文法書ではないが、通勤の行き帰りの電車の中で気軽に読め、授業でも生徒に話してあげることができるリソースとなる。



『考える・まとめる・表現する—アメリカ式「主張の技術」』

大庭 コティ幸子（著） 224 ページ エヌティティ出版（2009/3/25） 2310 円

高校生・高校の先生に「ディベートの土台となる考え方」や一般職員の方に「論理的に話すこと」についてのレクチャーを頼まれることが多いので、論理力を鍛える類いの書籍はよく読むことにしている。本書もその一つである。表題は、学習指導要領で「思考力・判断力・表現力」の育成といわれているものと同様である。図式化して整理する手法が紹介されている。マインドマップだけでなく、サークルマップやトライアングル思考図などが授業でも使えるだろうと思った。



『ふしぎなキリスト教』（講談社現代新書）

橋爪大三郎・大澤真幸（著）352 ページ 講談社（2011/5/18）

イエスは神なのか、人なのか。GODと日本人の神様は何が違うか？ どうして現代世界はキリスト教由来の文明がスタンダードになっているのか？

欧米の社会の制度やものの考え方など思考の柱となっているものは、キリスト教とその考え方であると思う。西洋の文明のアイデンティティを考えるための一冊である。一神教を理解することから、英語という言葉も異なる角度から見ることができると考える。



『一日一発想 366 日』（講談社プラスアルファ文庫）

糸川英夫（著） 457 ページ 講談社（1993/12） 1000 円

古本市でたまたま見つけた本である。アマゾンで購入すれば中古本が 105 円と出ている。これは買いだと思ふ。戦闘機、ロケットの開発から、楽器の製作・演奏まで多才な科学者が、集中力、独創力、知的生産の源である「発想の視点と方法」のすべてを明らかにしている。たとえば、

6月2日 横浜港開港記念日

ーチャンスー

独創力が生まれつきのものだと考えるのは間違いである。訓練と条件づくりさえあれば、独創のチャンスは万人にある。

ノーベル賞を受賞された福井謙一さんは、寝床の中でもアイデアを書きとめておけるように、枕元にいつも紙と鉛筆を用意している。さらに、家の中のいたるところにメモ用紙と鉛筆が用意してあって、なにか思いついたとき、そこがすぐに書斎になる。

トヨタ自動車や松下電器など多くの企業は提案制度を採用しているが、そうした会社の提案チャンピオンたちの発想生活を探ってみると、やはり家じゅうにメモ用紙を置いている人が多い。そのようにして、常に自分の発想を磨いているのである。

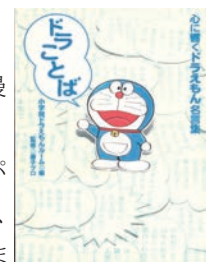


『ドラことば心に響くドラえもん名言集』

小学館ドラえもんチーム、159 ページ、小学館 (2006/9/1) 1260 円

我が家でも子どもが小さい頃はドラえもんを見ない日はなかった。大人も安心して子どもに勧められるTV漫画であった。それは、何気ない言葉でも、それだけで元気になるような言葉が話の中であったからだと思う。

「のび太の結婚前夜」の巻、未来の世界で、のび太との結婚に不安を抱くしずちゃんに、しずちゃんのパパがかける言葉、「のび太くんを選んだきみの判断は正しかったと思うよ。あの青年は人のしあわせを願い、人の不幸を悲しむことのできる人だ。それがいちばん人間にとってだいじなことなんだからね。かれなら、まちがいなくきみをしあわせにしてくれると、ぼくは信じているよ」なんて、ほっとする。教室にドラことばを掲示してみてもどうでしょう。私は疲れた時や気が滅入っているときにふと読んでみることもある。



7月

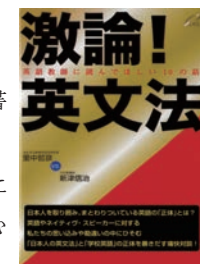
7月7日七夕の夜は、天の川を隔てて輝く、わし座の1等星アルタイル（牽牛星）彦星とこと座の1等星ベガ（織女星）織姫が一年に一度だけ逢うことを許された夜である。本来の七夕は旧暦に祝われたものである。旧暦だと8月中旬、この頃は北東から南西の宵の空高く天の川が流れ、その両側の岸边には織姫と彦星、天の川の川下には、なかなか会えない2人の間を無情に通り過ぎる、連れられない舟人にたとえられる上弦の月がかかる。子どもの頃の星空へのあこがれは今でも忘れていない。七夕伝説の夜、教養書、専門書だけでなく、さわやかな恋愛小説でも読んで若いときのひとときを思い出してみたいものである。

『激論! 英文法—英語教師に読んでほしい 10 の話』

里中哲彦、新津信治 (著) 215 ページ、プレイス、(2012/03) 1575 円

「対談英文法」と題して、かつて月刊誌『現代英語教育』（研究社出版）で展開されたものが改訂され書籍となった。

コミュニケーション重視の時代に文法指導は肩身の狭い思いをしているが、言語は文化であることを知るためにも文法をよく知ることが大切である。英語や英米人に対する私たちの思い込みや勘違いの中にひそむ「日本人の英文法」をしっかりと見直してみることも必要ではないだろうか。



- 第1話：「わたし」を取り囲む世界—人称のとらえ方
- 第2話：誤解表現—日本人の勘違い
- 第3話：否定と比較—その気分と心理
- 第4話：時間の捉え方—「時制心」を養おう
- 第5話：仮定法—真実を語る極意
- 第6話：助動詞—わかる、助動詞の気持ち
- 第7話：冠詞—それは脇役、しかしベテランの
- 第8話：前置詞—その中核的概念に迫る
- 第9話：関係詞—「情報の流れ」をつかめ
- 第10話：日本人の英語はどうあるべきか—しっかりしなさい 英語教師

『英文法の魅力 - 日本人の知っておきたい 105 のコツ』 中公新書

里中哲彦 (著) 212 ページ 中央公論新社 (2012/5/25) 777 円

河合塾講師の著者が東京新聞・中日新聞の「英語の質問箱」欄に連載したコラムを土台にまとめた英語表現の解説書である。英語習得の要は「英文法」を基盤に、ネイティブ・スピーカーが普段使う“ツウな文法”を紹介したりしている。日本人にはなかなかピンとこない、ネイティブ・スピーカーの感覚を授業でも紹介することは大切である。英文法についての105の質問・疑問を、「語源」「語彙」「語感」「語法」「語義」「誤解」の六つのカテゴリーに分けて回答している。



『英語のバカヤロー「英語の壁」に挑んだ12人の日本人』ポケット版

古屋 裕子(編集) 223 ページ 泰文堂(2012/5/25) 600 円

養老猛司(解剖学者)、竹中平蔵(経済学者)、古川聡(宇宙飛行士)、上野千鶴子(社会学者)、坂東眞理子(昭和女子大学学長)、福島孝徳(脳神経外科)など12人の賢人が紹介する、「バカの壁」ではなく「英語の壁」にどう立ち向かったかという話。読者に今後の英語学習への意欲と勇気を与える。2009年に単行本が出たが、この5月文庫本で再版された。12人それぞれの英語に対する「心構え」や「英語マスターの極意」などを、エピソードを読んでもみるのも、生徒に話すネタになる。



『超デジタル時代の「学び」- よいかげんな知の復権をめざして』

渡部信一(著) 264 ページ 新曜社(2012/2/7) 2835 円

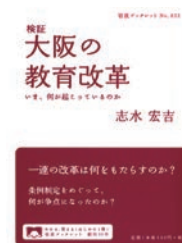
本書のタイトルには「デジタル時代」でなく「超デジタル時代」という言葉が使われている。副題の「よいかげんな知の復権をめざして」に惹かれて本書を購入した。「デジタル」とアナログ的な「人間の本質」には相当な距離があり、デジタル化時代にストレスを感じる人間が多いと思う。しかし、著者は、デジタル・パラダイムが崩壊してゆくこれからの「超デジタル時代」、アナログの世界にアプローチする「超デジタル」なテクノロジーは、「便利な道具」にとどまらず、「理屈だけでなく直感的に分かる」「リアリティをもって分かる」など「人間の本質にも大きな影響を及ぼすと述べている。7つのテクノロジー活用プロジェクトを通して、新しい時代の「学び」を紹介している。



『検証 大阪の教育改革——いま、何が起きているのか』(岩波ブックレット)

志水宏吉(著) 64 ページ 岩波書店(2012/4/7) 525 円

「先生、大変です。大阪を助けてください」2012年の正月に著者へ届いた教え子からの年賀状に添えられていた言葉がこのブックレット執筆の動機であると著者は冒頭述べている。大阪維新の会が府議会に提出した「教育基本条例案」のトップダウン的手法や教育現場への介入の姿勢が、批判にさらされている。しかし法案は府議会で可決された。今日の教育界が学力をめぐるグローバル・コンペティション(競争)の時代に入っていることを踏まえ、教育改革の世界的なトレンドについても概観しつつ、真に「格差を超える教育」を実現するためには何が必要かを論じている。



『ビブリア古書堂の事件手帖3～葉子さんと消えない絆～』

三上 延(著) メディアワークス文庫 575 円

昨年、文庫本で本屋大賞にノミネートされた作品の第三弾。鎌倉の片隅にあるビブリア古書堂は、その佇まいに似合わず様々な客が訪れる。すっかり常連の賑やかなあの人や、困惑するような珍客も。人々は懐かしい本に想いを込める。これは“古書と絆”の物語である。今巻の中編三話は全て「壊れた家族」がテーマになっている。大賞ノミネートされた1巻2巻を読んだ上でどうぞ。

個人的には、私は京都で年3回ある(次回はお盆の頃下賀茂神社での納涼古書市)古書市には毎回2日間通うか、半日は各書店テントを巡っている。昔人が愛した古書の匂いと変わらぬ知識の価値を、ページをめくって体感するときの喜びは言いようがない。そういう古書好きの人がはまる軽い小説である。



『教育の方法—心理学を生かした指導のポイント』

井上 知義ら(著) 174 ページ 樹村房(2007/11) 1995 円

「教育の方法」というタイトルの書籍には、佐藤学(著)『教育の方法』(放送大学叢書)200ページ左右社(2010/7/30)などがあるが、私が気に入ったのは、様々な教育方法を心理学を通して説明していること、見開きの右のページに図解や表などを添付しより具体的なイメージを抱かせやすいようにしている編集スタイルである。「学習者の認知と情報処理」「学習者の認知を考えた教育の方法」「学習者の認知にあった教育の技術」「学習者の認知にあった教育の評価」の4章を扱っているが、現職教員にとってもreminderとして、教育の方法を再認知しておくことが、授業の活動に意味を持って行うことができると思う。



8月

夏休みが始まった。学校の生徒にとっては、これまでにない何かを始められる冒険の日々である。

私たちは、何か新しいことを始めるたびに、これまでの世界を自分の足で歩きまわって得たものを見つめなおして、新しい地図を作って、前へ進もうとしている。

明日へ進む自分は、汽車で言うなら、客車として引っ張られてついていくのではなく、機関車としてこれまでの自分を引き連れていかねばならない。

目の前ばかりを見るのではなく、振り返って、後ろにある自分が得たものを大切に、そこから生み出されるエネルギーを動力源として、前へ進んでいかなければならない。

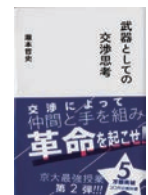
ただ、先行きに不安な感情を持ち続けていると、目の前の景色は全く別のもののように見えてくる。目に入ってくるものは同じでも、その時の感情によって見え方は大きく異なってくる。不安に思うのではなく、これまでの自分を信じて、自分の未来を拓いてゆこう。

あなたという機関車が、この夏どこへ行こうとしているのか、この先の人生どう進んでいこうとしているのか、未知との出会いである。この夏、胸がいっぱいになる楽しい思いで過ごしてみたいものだ。

『武器としての交渉思考』星海社新書

瀧本哲史（著）、336 ページ、講談社（2012/6/26） 903 円

ベストセラー新書となった『武器としての決断思考』につづく第2弾。いくら自分の力で決断できるようになっても、いくら高い能力や志を持っていても、世の中を動かすためには自分一人の力ではとても足りない。相手と自分、お互いの利害を分析し、調整することで合意を目指す交渉力が必要。本書は、交渉とは、単なるビジネススキルではなく、ときには敵対する相手とも手を組み、共通の目的のために具体的なアクションを起こしていく—そのための思考法と説いている。



『英語教師のための第二言語習得論入門』

白井恭弘（著）、168 ページ、大修館書店（2012/1/15） 1260 円

岩波新書『外国語学習の科学』の著者が、第二言語習得研究の成果から、特に日本で英語を教える際に是非とも知っておきたい知識を選びすぐって紹介している。

●主要目次●

- 第1章 第二言語習得論のエッセンス
- 第2章 SLA からみた日本の英語教育
- 第3章 小学校英語教育のこれから
- 第4章 中学校英語教育のこれから
- 第5章 高校英語教育のこれから
- 第6章 大学生、社会人のための英語教育



『大修館英語授業ハンドブック 高校編』

金谷憲（編）、382 ページ、大修館書店（2012/04） 4200 円

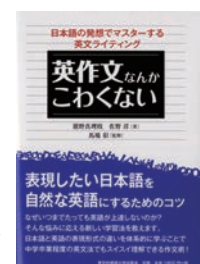
「新学習指導要領に対応した高校の英語授業のために」がカバーの文言である。第1章「高校入学時の指導」、第2章「英語で授業の考え方」第3章「基本授業のパターン」第4章「指導技術」第5章「文法指導のアプローチ」第6章「評価」第7章「教材・教具の取り扱い」第8章「クラスルームマネジメント」第9章「自律的学習者に育てるための工夫」と、教科書を使った授業の展開方法から、「英語で授業」の考え方、技能を統合する指導まで多岐に亘ってカバーしている。付属 DVD により内容を確認することができる。



『英作文なんかこわくない 日本語の発想でマスターする英文ライティング』

猪野真理枝（著）、283 ページ、東京外国語大学出版会（2011/4/15） 1680 円

日本語は英語と非常に異なる言語構造を持つために、日本人が英作文をすると、日本語をそのまま直訳したような英文を書きがちである。本学の学生にもその傾向が顕著に現れる。思考の言語と表現の言語が異



なる場合、両者の中継する言語知識が必要である。本書はその点に着目し、日本語の文法を正しく理解し、その意味に対応する英作文のしかたを学ぶ対照言語学的なアプローチで説明を試みている

本書は5つのステップから構成：

〈Step 1 から Step 3〉 文型、立場表現、時間表現などの日英語どちらにも存在する表現形式を比較しながら、英作文の練習をします。

〈Step 4〉 日本語にない構造である「無生物主語」と英語にない構造である「主題文」を知り、それらを英語で表現する方法を学びます。

〈Step 5〉 日本語をより自然な英文にするために、日英語の「文の基本構造の違い」を知り、「自然な英文をつくる」ための総仕上げをします。

“Ever Wonder Why? “

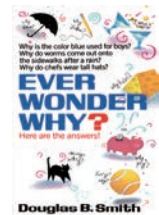
Douglas Smith(著)、144 ページ、Fawcett; Reprint 版 (1991/11/24)

Why is the color blue used for boys?

Why do worms come out onto the sidewalks after a rain?

Why do chefs wear tall hats?

「なぜ黒猫が不吉と言われるの?」「たまねぎを切るとなぜ涙が出る?」_Ever Wonder Why? は、このような身近にある「はてな?」に答えている。夏簿くつろぎの時間に一読を。センゲージ・ラーニング (2011/1/1) からも学生向けテキストとして出版されている。



『子どもに教えてあげたいノートの取り方』

高濱正伸(著)、176 ページ、実務教育出版 (2010/4/10) 1470 円

文部科学省も、グローバル化に対応するため、「思考力・判断力・表現力」の育成が必要であると声を大きくして学校教育に求めている。思考力などは目に見えない能力である。そこで、ノートづくりは、生徒がどのように考えていくべきか思考を整理するために役立つものであるのではないかと考えていた。書店で平積みしてある本書を見つけ早速購入した。教員の板書を写すのではなく、自分で工夫して書いてみる、そうしたノートの取り方が生徒の理解を深める勉強法になると思われる。本書は小・中学校の児童生徒を対象にしているが、参考になる。



『愛と励ましの言葉 366 日』

渡辺和子(著)、281 ページ、PHP 研究所 (2006/12) 600 円

夏休みは心の充電時期でもある。

本書を読んでほっとした気持ちになってみては。毎日働くだけが人生でなく、時にはゆっくり歩いて行くこともひつよう。心ふさぐ日や人生に迷う日も、「ありのままの自分」を認め、かけがえのない“今”を自分らしく生きましょう。



『青い鳥』

重松清(著)、新潮社、(2007/07) 1680 円 文庫版 662 円

最後の「カッコウの卵」以外のお話の主人公は中学生である。それぞれが、心の中に色々抱え込んでいて、そんな時に村内先生がやってくる。村内先生は中学の臨時講師。村内先生は言葉がつかえて、うまくしゃべれない。でも、先生は、授業よりもたいせつなことを教えてくれる。大切なことを伝えるためにやってきて、それを伝えることができなくなってしまう。先生に、「もう大丈夫。次へ行かなくても良いです」と、そう言える時がくるようにと、心から祈りたくなる。いじめ、自殺、学級崩壊、児童虐待…すべての孤独な魂にそと寄り添う感動作。文庫本も出ている。

本書は8つの話が綴られている。

「ハンカチ」：場所限定で言葉が出なくなってしまう精神的病を持つてる女の子。ハンカチを握りしめてじっと学校での時間を耐えている・・・



「ひむりー独唱」：先生をナイフで刺してしまった男の子。カエルを殺しまくってしまう・・・

「おまもり」：バスケット部で一緒の子が自転車同士の追突事故で足を怪我してしまう。お見舞いに行った女の子の父はかつて自動車事故で人を殺してしまった過去があり・・・

「青い鳥」：クラスメートのイジメを受けて笑っていた子が自殺未遂をした。その子はもう学校に来ないが、村内先生はその子の席をそのままにし、毎日声をかける

「静かな楽隊」：私立に入り損ね公立中学にしぶしぶ通っているあやちゃん。あやちゃん帝国という怖い女子の集まり・・・聡美は6年生の時の音楽合奏で、カスタネットが上手に打てなかった事が今も頭に蘇る・・・

「拝啓ねずみ大王さま」：洋介の父は電車で飛び込み自殺した。色々な事情で私立中学に通えなくなってしまった洋介は、公立中学に転校したが、レベルの低く、やってられない行事にうんざり・・・

「進路は北へ」：私立女子中学。小学校からの内部生、中学から入って来た外部生・・・

「カッコウ」：てっちゃんは今守る人、智恵子が側にいる。ある日恩師村内先生を見かけ再会をしに行く。

9月

2012年・平成24年の夏もあっという間に過ぎた。局地的な豪雨が多く、各地で被害が出た。電車も各線で運転見合わせとなったりした。落雷の被害も多かった。

そんな夏もさよなら。二学期、秋学期が始まる。歳を重ねると、妙に時の過ぎるのが速い。ついこの前が正月だったのと思ってしまう。でも、学生や生徒は、毎日を楽しい思いで過ごしてくれれば、充実した日々であったことだろう。

風に揺らぐコスモスを見ていると、今日一日のありがたさを感じる。精いっぱい。精いっぱい生きて。

『数学による思考のレッスン』（ちくま新書）

栗田 哲也（著）254 ページ 筑摩書房（2012/8/6）840 円

本書は、算数・数学を中心とした歯ごたえのある問題を解くことを通じて、読者が思考に際して頭の中で起きていることを自覚し、自らの思考力をどうすれば伸ばせるのか手がかりを得ることをめざしている。

帯に記載されている、本書における「頭の使い方」には、

- ・問題の構造を洞察する
- ・視点を切り替える
- ・断片から全体を回復する
- ・比喩、アナロジーを使いこなす
- ・紙に考えさせず頭で考える
- ・異常探知能力でアイデアを生む
- ・言語の不完全性を自覚する
- ・結果から説明要素を想像する

とある。

思考力・判断力・表現力の育成が求められる中、英語教員は英語の枠の中でのものを見るのではなく、数学的思考も必要だ。



『13歳は二度あるか』（だいわ文庫）

吉本隆明（著）192 ページ 大和書房（2012/8/10）630 円

2005年に単行本と出版されたものの文庫版

吉本ばななさんの父、吉本隆明氏は思想家で、今年3月に亡くなられた。新聞紙上では訃報を告げる記事が多数掲載された。本書は、「13歳は一度しかない」つまり、繰り返し得ない大切なときなのだ、というのが題名の意味であろう。表紙裏に、「先が見えないこの時代。世の中がひっくり返るような出来事がこれから起こらないとは限らない。大切なのは、今の時代の姿を自分で判断すること。社会との関わり方、宗教、国家、犯罪、戦争…。いま、何を見るのか、どう読むのか。“思想界の巨人”が語った、「現代」を生きるということ。」とある。中学生たちへ論じた生活上の心構えとして、新聞をよく読むことを挙げている。HRでの話にいかがですか。



『数学ガール』（数学ガールシリーズ 1）

結城浩（著）344 ページ ソフトバンククリエイティブ（2007/6/27）1,890 円

美少女ミルカさん、元気少女テトラちゃん、それに僕。三人の高校生が数学にチャレンジ。数学を楽しみ、学ぶことについて考え、異性へのほのかな思いに心を動かす……。本書はシリーズ1で、オイラー生誕 300 年記念出版。

数学ガールシリーズ 2 は『数学ガール フェルマーの最終定理』

数学ガールシリーズ 3 『数学ガール ゲーデルの不完全性定理』

数学ガールシリーズ 4 『数学ガール 乱択アルゴリズム』

数学ガールシリーズ 5 『数学ガール ガロア理論』（2012/6/1）

と続く。最新刊のがロアの話も新聞紙上で書評が掲載されていた。



“Signposts for Balance in Love and Work” 『恋と仕事にスグ効く英語 100』

ヴィッキー・ベネット（著）149 ページ IBC パブリッシング（2007/5/25） 945 円

オーストラリアの作家兼ビジネストレーナー、ヴィッキー・ベネットが、仕事に恋に悩むあなたへ贈るポジティブなメッセージ。仕事での成功とプライベートの充実を両立させる秘訣をやさしい英語で解き明かす。シンプルで力強い 100 の英語フレーズが人生の道しるべ (signpost) となる。英語力とポジティブ・シンキングが同時に身につく。



本書は、LEVEL2 TOEIC 350 点以上 英検 3 級以上 (1300 語)

“Think About Now, Not The Future “には

Some people think too much about the past or too much about the future and they forget that now is a great time to be glad and happy about. Stop right now and look around you; you are a person sitting reading this book, happy, Why would you want more than you have in this moment? If you live totally now, life is a lot more fun. When you plan too much for the future or worry too much about what happened in the past. you are likely to feel helpless, If you live in the now, in this moment, then there is very little fear or worry.

“Think About Now, Not The Past “には、

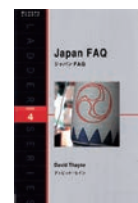
Things from the past are important to you. as they make up part of what you are today. Many of the things you remember from your past are good to remember; they are happy, and please you. However, some of the things you remember from the past can make you unhappy, hurt, or sad. It is not healthy if you spend too much time remembering unhappy past events and feelings. Try not to spend too much time thinking about your past actions and feelings. Try to think about what is happening to you today, right now. It is important to have some goals for the future and to think about them, but most of your thinking should be about what you are doing now and what you are going to do tomorrow.

とある。

『ジャパン FAQ』

デビット・セイン（著）183 ページ IBC パブリッシング（2005/8/30） 1,050 円

日本在住アメリカ人である著者が、自身の体験に基づいて執筆した、日本に関する FAQ。「日本の面積を、アメリカやドイツと比べると?」「日本のオフィスと外国のオフィスの、一番の違いは?」日本人自身が意外に知らない、日本に関する基礎知識を明らかにしながら、日本について外国人に説明するための語彙や表現を身につけよう。



LEVEL4 TOEIC 470 点未満 英検準 2 級以上 (2000 語) 高校の教科書レベル

What do people do in their free time?

The number one activity is eating out! But other popular activities include karaoke, watching videos, going to the movies, concerts, and sports events. or playing pachinko.

Domestic travel is also very popular. Many people travel to the mountains in winter to go skiing and snowboarding. In summer they go to the seaside. And everyone likes going to hot springs resorts in every season!

10月

稲刈りは地方によっては済んだところもあるだろう。田んぼの中の一本足の案山子。何か見ていると胸に迫ってくるものがある。雀の監視役となって、秋の実りを護っているが、朝から晩までずっと一人で立っている。先生も時には案山子なのかも知れない。ただ、だまって秋の実りを護っている。その苦勞は、誰かが見ていることでしょう。

秋の夜長は、美しい調べに読書がいい。閑かに心充ちるものが、皆さんの実りになるでしょう。

『英語教育学の実証的研究法入門 _Excel で学ぶ統計処理』

寺内 正典 (著) 256 ページ 研究社 (2012/8/7) 2,940 円

「英語教育学や第二言語習得などの研究分野では、近年、客観的なデータに基づく実証的な研究が重視されるようになってきている。例えば、同一クラスで4月と7月に行ったテストの平均点を比べて、学生の英語力が伸びたかどうかを検証する場合には、データを「t検定」で処理する必要がある。そうした実証的研究を行う際の研究の手順や調査方法、統計の扱い方などをわかりやすく解説する。特に『Excel』や『エクセル統計』を活用して、簡単に且つ確実に統計処理ができるように、PCディスプレイ画面を取り入れて、その手順を詳しく解説してある。」



『学習英文法を見直したい』

大津由紀雄 (編) 300 ページ 研究社 (2012/7/21) 2,625 円

英語を外国語として学ぶ日本人にとって、英文法の学習は必要不可欠。コミュニケーション能力を下支えするのも英文法の知識だ。むろん、従来の英文法のあり方が無条件で肯定されるわけではない。本書は、日本人にとっての理想の学習英文法のあり方を問い直し、改めて英文法の意義を再評価する試みである。2011年9月10日に慶應大学で行われた「学習英文法シンポジウム」登壇者のほか、さらに多くの論者の協力を仰ぎ、理想の学習英文法の姿を徹底討論する！



『ネイティブが教える英語の動詞の使い分け』

デイビッド・セイン (著) 290 ページ 研究社 (2012/6/26) 2,100 円

「この状況、文脈では、どんな動詞をあてるべきか？」

日本人英語学習者がなかなか理解しにくいこの問題を、セイン先生が、実際にネイティブスピーカー数名に調査したうえで、ずばり教えてくれます！

本書の帯には次の問題が掲載されていた。

さて、問題です。次の1~5の例文の空白には、acquire, get, obtain, gain, earn のどれを入れるのがいちばん適当でしょうか？

1. Young people should try to ____ skills that will help them find work.
2. Paul ____ enough money working after school to travel around the world.
3. She ____ the respect of the community with her honesty.
4. I ____ 30 inquiries into the construction project.
5. It took him three months to ____ a work permit in Canada.



『ゼロからスタート English (イングリッシュ) 2012年10月号』

デイビッド・セイン (著) ジェイ・リサーチ出版; 季刊版 (2012/9/6) 800 円

この9月に学生を連れて英国へ教職の fieldwork に出かけた。そこで、気になったのが、学生の応答が1語や2~3語でしかできないことであった。“How did you like our classes in Manor School?”と訊かれて、“They are different from Japan.”と応えて、英語も気になるところだが、その次の言葉が出てこない。”Because …”とつなげてこそ会話である。相手にも失礼である。本書はシリーズで発刊されているが、この秋の vol.31 はそうした短い会話に終わらない tips がまとめられている。「英会話特別レッスン30」日本人英語の弱点をネイティブ発想で徹底攻略とある。拡がりのある会話をめざすために参考になる。



11月

木々の葉っぱが落ち始めると、少しさびしい気がする。

踏みしめると、落ち葉は「くすっ、くすっ」ともの悲しい音楽を奏でる。

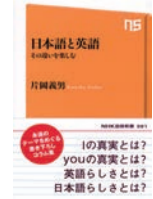
今年も残すところ2ヶ月。時は駆け足で過ぎていく気がする。バッハの無伴奏チェロ組曲第一番を聞きながら、しみじみと思うことがある。京都では10月31日から11月4日まで知恩寺で古書市がある。古本の匂いに包まれながら、これと思う本を探して見つけたときの喜びは格別である。

さて、内省的にも外交的にも閉塞感を感じる日本の将来に、積極的に内向きにならないで前へ進んでゆく生徒を生み出すためにも大人はしっかりとした知見と行動を示していかなければならないと思う。

『日本語と英語—その違いを楽しむ』(NHK 出版新書 391)

片岡良夫(著)、192ページ、NHK出版(2012/10/5) 735円

「風呂を取る(take a bath)」ものだと思っていた少年は、ずっと「風呂に入る」ということが分からなかった・・・主体の思考とアクション(動詞)に奉仕する言葉である英語。一方、世界をすでにでき上がっていてそこに入っていき「状態」として捉える日本語。ハワイ出身の日系二世の父と近江八幡出身の母との間に生まれた著者が、二つの言語の差異を日常的な言葉遣いの中から浮かび上がらせる。『英語で言うとはこういうこと』角川 one テーマ 21 新書では、日本語を英訳する際に、(1)日本語を骨組みに要約する。(2)英語の機能に沿って話す。という2段階の考え方を200例をもとに説明している。



『日本人の英語表現』

T・D・ミントン(著)、184ページ、研究社(2012/6/26)、1,575円

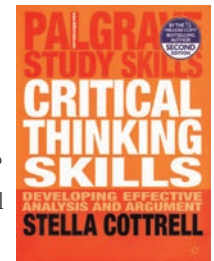
帯に「次の日本語表現を、どんな英語にしたらいいだろうか?」「お待ちしておりました」とお客様に英語で言うときにI've been waiting for you.などと表現していませんか?だとしたら、大間違いです。どこがどういけないのか?日本人は、なぜそうした誤りに陥りやすいのか?とある。解説はp.83にあるが、waitという動詞の持つニュアンスを知らないことから起こるネイティブをびっくりさせる表現である。訳読など日本語に逐語的置き換えて外国語を理解習得する方法では、ずれは埋まらない。本書は英語表現に結びついたイメージをどう会得するか、英語表現のニュアンスにもう少し敏感になろうという書である。



“Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument (Palgrave Study Guides)”

Stella Cottrell(著) 282ページ, Palgrave Macmillan; 2版(2011/5/15) 1,973円

初版をアマゾンで買っていたが、先日学生を連れて英国に行った際に、Waterstones書店で書棚にあったのを見つけた第2版、二色刷りになり読みやすくなった。Reading between lines, critical reading, critical writingなど具体的な学び方の技術をまとめている。3月の免許状更新講習でも紹介しようと考えている。



『石橋を叩けば渡れない』

西堀栄三郎、264ページ、生産性出版;新版(1999/04) ¥ 1,680

実は滋賀県のT先生が、Facebookで紹介していたので、早速読んでみました。平易な文章で書かれているので、気楽に読める。西堀さんは第一次南極観測の隊長として有名な方で、沢山の困難を乗り越え、多くの隊員をまとめ、目標以上のものを達成するというストーリーの中で、日常の人や物事とのかかわり方、心構えを教えてくれる。「どんな事でも、まずはやってみること。やってみなければ、なにも変わらない。やる前からあきらめる事をしてはならない。」仕事や学校で落ち込んだときなどに読むと励まされますよ。



『フレームワーク使いこなしブック』

吉澤 準特(著) 248ページ日本能率協会マネジメントセンター(2010/7/30) 1,680円

私は、ディベートの講習講師を依頼されることが多い。と言っても、そのルールを教えるのではなく、ディベートの持つ論理的な思考の考え方などをお話させていただいている。講習では、いつも図解思考として、graphic organizer ともいう、種々のフレームワークを使って論題などを整理していくことが大切であると伝えて



いる。本書はビジネスマン向けであるが、課題を解決していくストーリーを追いながら、フレームワークを学べるしかけは、絵の効果もあって、とても読みやすく、英語の先生にも活用できるものと思う。その整理の仕方が思考力の向上につながる。

12月

冬がもうすぐやってくるという信号を送るかのように、見事に色づいた葉を

木は惜しげもなく、また、さりげなく落としている。

人にはこれまでどおりにとか、何かにしがみつこうとすることがある

でもそれは、変わろうとしない者の言い訳であるのかもしれない。

葉は枝にしがみついていたのかもしれないが、冷え込む冬を前に

木は葉を落として新たに生まれ変わろうと準備をしている。

まっすぐやってくる寒さにあなたは準備ができているだろうか。

持っているものを抱え込んでいるだけでなく、時には捨てることも必要だ。

過去への思いは整理して明日へ向かうことだ。

厳しい冬を目の当たりに経験して一つ大きくなることを、年を取るというのだろう。

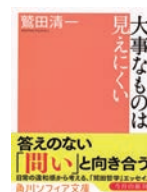
木々の年輪は、外側の樹皮のさらに外に新しく生まれるものだ。

内側の年輪は変化することなく、木を支えている。

『大事なものは見えにくい』（角川ソフィア文庫）

鷲田清一（著）、269 ページ、角川学芸出版（2012/11/22）780 円

近代以前の人生は、その環境や性別で生きる道が決められていた。人生の輪郭は幼い頃から見えるものであった。こうしたことから解法を願い、近代を生み出した。そしてひとは自分の存在を自分で選び、決めることができるようになった。しかしながらその自由を得ることで、別の重荷を背負うこととなった。できあがった人生の形に責任を持つのは自分となった。自立が大切ではあるが、ひとは他者とのインターディペンデンス（相互依存）でなりたっている。「わたし」の生も死も、在ることの理由も、他者とのつながりのなかにある。確かなことは何もわからない、価値の遠近法が崩れた現代社会のなかで、日常の隙間に生じる違和感を育て、答えの見えない「問い」と向き合う鷲田氏の言葉は、先行き不安な気持ちを持つ若者にも語ってやりたい。



『英語リーディングテストの考え方と作り方』

卯城祐司（著）、220 ページ、研究社（2012/9/25）、2,310 円

検定教科書と読解テストをつなぐ指導と評価の方法についてまとめたものである。「評価」目的や評価の持つ教育効果を基にしたテストのあり方というより、現場の先生が教科書で実際にテストを作る際にどう考えたり、何を活用したりすると良いかなどをまとめた実践書。明日の授業に追われている人にとっては、有用な参考書であろう。ただ、評価というものの意味をしっかりと把握していないと、形式的になる。形成的評価、統括的評価をどう考えるかを十分認識した上で本書を読まれる事を薦める。



『教師が育つ条件』（岩波新書）

今津幸次郎（著）、224 ページ、岩波書店（2012/11/21）、756 円

いじめ問題や教師の問題行動発覚などに不安が巻き起こる今、社会の鏡である学校において、教師が問われるべき資質能力とは何か。学校や教師の多様で深い現実を知らない、多くの教育課題が議論されたり、評論されたりしている。学校や教師のありのままを理解することが望まれる。学校現場を育てるのは小手先の政策ではない。学校や教師をありのままに理解した上での教員養成が望まれる。教員養成の一端を担う、大学、教員養成センターの教員が心すべきことである。



『学び』の復権——模倣と習熟』（岩波現代文庫）

辻本雅史（著）、288 ページ、岩波書店（2012/3/17）1,134 円

裏表紙に「近代に学校が普及する以前、日本人はどのように学んでいたのか。近代学校は江戸時代の教育の何を受け継ぎ何を捨てたのか。本書は手習塾（寺子屋）や藩校、徒弟制の江戸期の学びの実態を具体的に描き出し、歴史の側から近代学校を透視する。」とある。現代の教育の再生のカギをどう見いだすかを説く。目まぐるしく変化する社会において、矢継ぎ早に通知を行う教育行政に戸惑い、教育とは何かを見つめ直そうとする機会にかけている教員が、もう一度自分を取り返すためにも「教育とは、学びとは」を再考し、目の前の生徒に望んでほしいと思う。今年再版の書籍で、もとは1999年に角川書店より刊行されている。



“Kira-Kira (Paperback)”

Cynthia Kadohata（著） 272 ページ、Atheneum Books for Young Readers; Reprint 版（2006/12/26）691 円

2005年の「ニューベリー・メダル」を受賞したシンシア・カドハタのこの小説は、美しくユーモアがありながらも涙を誘う。1950年代に日系アメリカ人のタケシマ家がアイオワからジョージアへと移動する物語である。語り手のケイティはまだ幼稚園に通う少女だ。両親は家畜や苗や卵の生産に携わりながらひどい状況と信じられないような月日を耐えていた。けれども、彼らはリン、ケイティ、サミーの3人の子供たちのために、なんとかして愛情のある安定した家庭を作ろうと努力していた。ケイティが信頼し憧れている姉のリンは、アドバイスの達人で、一見うまく教えられないような状況でもけっして引込めたりするような少女ではなかった。リンはケイティに、どうして空や海や人々の目はみな特別なのかということから、人種的偏見の不公平さまでのすべてを教える。あるとき、リンのリンパ腫が発見されると、物語は悲痛なものへと変わる。そして、悪化していく彼女の病気を通してケイティは、リンの人生に対する「キラキラ」した見方を思い出そうと全力を尽くすのである。中学3年生くらいから頑張れば読める英文のレベルである。裏表紙の英文の紹介は、kira-kira (kee ra kee ra): glittering; shining Glittering. That's how Katie Takeshima's sister, Lynn, makes everything seem. The sky is kira-kira because its color is deep but see-through at the same time. The sea is kira-kira for the same reason. And so are people's eyes. When Katie and her family move from a Japanese community in Iowa to the Deep South of Georgia, it's Lynn who explains to her why people stop on the street to stare. And it's Lynn who, with her special way of viewing the world, teaches Katie to look beyond tomorrow. But when Lynn becomes desperately ill, and the whole family begins to fall apart, it is up to Katie to find a way to remind them all that there is always something glittering -- kira-kira -- in the future.



1月

今年も新しい年を迎えた。この歳になると人生を振り返ることが多くなる。

人生は一枚の絵画であると思う。うまく描けるとは限らない。

明るい色を使うときもあれば、悲しい色を使うときもある。

うまく形を描けないときには、投げ出したくなる。

同じ色ばかりを使っていると、つまらなくなって、絵を描くのに飽きてくる。

だからといって途中で止めてしまうと、ずっとそのままの絵である。

描き上げようとして投げ出した途中の絵も、時間が経ってから見直してみると、

けっこういい味が出ているものだ。

見えなかったものが見えてくることもある。

思いもしなかった昔の出来事が、鮮やかに甦って、懐かしい友の顔を連れてきてくれたりする。

本は、いつも自分を昔に連れ戻してくれたりする。幸せな時間、

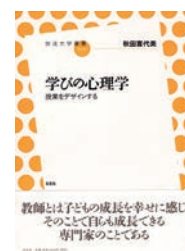
そしてこれからを見つめさせてくれる。決意の時を連れてくる。

『学びの心理学 授業をデザインする』放送大学叢書

秋田喜代美（著）、244 ページ、左右社（2012/9/21）1680 円

「はじめに」の冒頭に以下のような言葉がある

「人生で最も伸び盛りの児童期や青年期の大半の時間を、子どもたちは学校という制度的な場で過ごす。その中で最も長い時間が授業である。だからこそ、どの子どもたちにとっても、授業は、仲間や教師と共に



新たな世界と出会い、他者と対話する時間であり、新たな自分の可能性を見出し、自己を形づくる時間であってほしい。学校教育に関わる者なら、誰もがそう願っているのではないだろうか。

教師は、授業が子どもたちにとって意味ある内容となるように、学びの質をよりよくするべく知恵を絞り、教育の専門家として、多忙な日々の中でも子どもたちに心を砕き、向き合っている。それは、教師批判や学校批判報道がどんなに多くなされたとしても、私が出会ってきた日本の多くの教室で経験してきた事実である。（後略）

これを読んで、本書が教師に寄り添う、教師を支援する意図で書かれた書籍であるとうれしく思った。「学びのシステムとしての授業」「教材からのたしかな学習」「教室における対話協同で学びあう関係づくり」など示唆に富む記述満載である。著者は授業研究の第一人者でもある。理論と実践をいかに結びつけるか、授業研究は学校の教員同士、大学教員との協同で行われて成果をみると思う。そしてその恩恵を一番受けるのは生徒である。教師は生徒のために存在する。帯には、「教師とは子供の成長を幸せに感じ、そのことで自らも成長できる専門家のことである」とある。

『判断力』を強くする - 正しく判断するための 14 の指針』(ブルーボックス)[新書]

藤沢晃治(著)、177 ページ、講談社(2012/6/21)、840 円

書籍説明に、「狭い範囲でしか考えていない、目先のことに囚われる、優先順位を間違える、確率の小さな危険を過剰に恐れる、「疑う力」が不足している…から、あなたは悔やむことになる。「なぜ、あの時…」を二度と繰り返さないための鉄則集」とあって、すぐに購入した。文科省が進める「思考力・判断力・表現力の育成」を考える上で、何が判断の根拠となるかを整理して考えたいと思った。データをしっかり持っていることもさることながら、判断の基準をどう考えるかである。ビジネス向けの書籍であるが、考えるヒントを得ることができる。「因果関係を間違えない」「選択肢を多い目に設定する」「何が最も緊急か考える」「自分の思い込みを疑う」など授業の指導展開に必要な鉄則でもある。



『mini 版 学校では教えてくれなかった ネイティブにちゃんと伝わる英単語帳』(アスコム mini book シリーズ)

[文庫]

デイビッド・セイン(著)、215 ページ、アスコム(2012/11/23)、680 円

ビジネスマン向けのネイティブ感覚の英語シリーズを無数に出している著者の近刊。通勤電車での頭の体操と思って購入した。教科書や辞書が教えてくれない英単語の「微妙な違い」が一目でわかる、画期的な英単語帳とある。日本人には思い込みの英単語のイメージを持っていることがある。そうではなかったのかと気づく単語の解説もある。



『クリティカル・シンキングと教育—日本の教育を再構築する』(岩波現代文庫)

鈴木健ら(編著)、224 ページ、世界思想社(2006/11) 1,995 円

「人の意見を鵜呑みにせず自ら考える力」こそが、真の基礎学力である。母語・外国語を問わず、すべての教育の基礎をなす「クリティカル・シンキング」の重要性と伸長のための方法論を 8 つの視点から平易に解説とある。「はじめに」に 2001 年 4 月 28 日付『朝日新聞』朝刊 7 面の「思考一新講座」のグレン・フクシマ氏の言葉を引用されている。「英語の会話は、意見の交換が前提になっている。米国の言語学者は、これを『テニス』に例えた。参加者は考え方をボレーのように行ったり来たりさせるわけだ。一方、日本語での会話は、「ボウリング」。だれもが順番に話す機会があるが、発言に他者が反応することはほとんどない。」とあった。授業にもお互いに考え合う interactive method を用いていかねばならないと思う。



『思考力の鍛え方 学校図書館とつくる新しい「ことば」の授業』(静岡学術出版教養ブックス)

桑田てるみ(編著)、248 ページ、静岡学術出版(2010/4/13) 1,260 円

この 3 月に行う免許状更新講習 3 で、私が担当する「思考力・判断力・表現力の育成」の講習資料をまとめるために、いろいろな書籍を読みあさっている。本学の図書館で見つけた本書は、新学習指導要領が求める教科の枠を越えた「思考力・判断力・表現力」の育成と「言語活動」に関して、生徒には国際的に通用する言語や思考のスキルの育成を考える書籍である。問題解決のプロセスを「可視化」し、ことばの力を鍛え、「考える型」で思考をナビゲートする、生徒が自分で考え表現する力を育てるといふ、私の考えを支えてくれる書籍であった。思考力は鍛えないと育成できない。

